172
2
69

尋常小學校教師用

修身書

第三

明治二十年七月再版

K121.1
1a
3

K121.1
1a
3

尋常小學校教師用 修身書 第三

辻敬之
岡村增太郎 同編

明治二十年七月
教育書專賣所
普及舍

JC 4660

例言

一 此ノ書ハ兒童ノ德性ヲ涵養シテ日常ノ作法ヲ教ヘ兼テ尊王愛國ノ道ヲ知ラシメンガ爲內外古今人士ノ善良ナル言行ヲ輯錄シタルモノナリ

一 兒童ニ修身科ヲ教フルニハ談話ニ由リテ教師自ラ言行ノ模範トナラザル可カラズ故ニ此ノ書ハ分チテ教師用ト生徒用トノ二種トナシ教師用ノ書ニハ事柄ヲ掲ゲ生徒用ノ書ニハ其ノ圖畫ヲ掲ゲテ談話ヲ聞クノ傍之ヲ目擊セシメ又其談話ニ對スルノ格言ヲ載セテ之ヲ記憶セシムルモノトス

一 教師用書ノ上欄ニ問答ヲ設ケタルハ教師ガ談話ノ際往往此ノ法ニヨリテ兒童ノ心意ヲ開誘スルニアリ又生徒用書ノ上欄ニ事柄ノ大意ヲ掲ゲタルハ兒童ガ父兄ニ依リテ復習シ若クハ他日自ラ誦讀シテ教師ノ談話ヲ再憶セシムルニアリトス

(一)恩を施して報を得

〔報恩〕

問人愛ク賢ク之ヲ報ゼザルモ可ナルヤ否

佛蘭西のある都に一人の婦人あるが此の家富み財饒かにしてまた慈愛の心深かりしが常に貧窮のものを憐れみ施與を好みたりが一歲不慮の災難に罹りて其の財產を失ひしにぞ餘義なく都を立退きてとある田舍に住居を求めたるが引續き貧窮に陷るり面白からぬ月日を送りしに舊時召し使ひたる雇人の一人思ひがけず尋ね來りて許多の金子を出しこれ

を婦人に贈りていふよう扨も某の御家に召使いれ一日い海山の御惠みを被り剩へ田畑居宅までも賜はりて妻子眷屬に至るまで餓へず寒へず世を送ることみなこれ主君の御恩なりとれば今主君の斯る御不幸を見て如何でこれを救ひまゐらせ昔の恩義に報いざるべきといひけるとぞ

（二）旅人楓の樹下に憩ふ（報恩）

盛夏酷熱のころ二三輩の旅人暑氣にたへ兼ね

て路の傍に在る楓樹を見て其の蔭よ憩ひ各樹の根を枕とし仰いで梢枝を眺め此の樹他の木と異なりて實を結ぶことなきのみならず其の材に至てい更に世間にい無用の木なりと互に誹謗する際一人これを戒め諭して曰く君等も實に恩德を知らざるの甚しきといふべし今目前我我の此の炎熱を凌ぐを得るい誰の功ぞ實に此の樹の惠みを受くるにあらずやといひければ皆皆大よ感じて過を謝したりと非浮薄情

の輩は其の蒙れる恩惠の中に坐して其の恩人を毀るに至る世の報恩を知らざるものは此の事を見て以て自ら戒むべきなり

格言

酉諺に曰く恩は借金の如し返却せざるべからず

參照

五代の時呂袁敵將の爲に破られ擧家皆死せり客に趙玉と云ふものあり其の孤呂琦を抱きて逃れ市に乞ひ以て資く後呂琦晉に仕へ高官に昇るに及び深く趙玉を德とし之に父事せり其の病ある毎に親扶持し醫藥を供せりと云ふ

(三)心頭共に直し

〔改過〕

宋の徐積といふ人ある時人に語りけるは予始めて安定先生に見えたる時頭の容少し傾きたりしに先生忽聲を勵まして頭の容を直くすべしと叱り給ひしかは其の時予是特に頭の容

〔問〕人ハ形チ正シクスベシ然レドモ徒ニ形チ正クスルノミニシテ可ナルベキヤ如何

のみならず心もまた直くせざるべからざと思ひけりされば先生よ見えて教戒を受けたるより以後い能く邪心を絶つよ至りたりといひけるとぞ此の人の如きも善く師の教誡よ從ひて其の過を改めたるものといふべし

(四)二士節を折りて名士となる

〔改過〕

唐の趙武孟といふ人少くして游獵し獲たるところの肉を其の母に饋りしよ母泣きて云ひけるは汝書を讀むことを好まぎして斯く放蕩ふり吾何をか望まんとて其の肉を捨てて食はざりしかば武孟これに感激して志を改め遂に力學して大に名をなしたるが後臺侍御史となり河西人物志を著はしたりはた魏の陽固も少くして任俠を好み劍客と交りて生産の事に心を留めざりしが年二十六にして始めて節を折りて學問に心を傾け遂に博覽にして文才あるに至りしとぞ

格言

易に曰く善を見ては遷り過あれば改む

古語に曰く能く過を補ふものは君子なり

參照

田邊晉齋嘗て一友人の家に詣り夜深くして返る從僕門に立ち寒に堪へざるを見る勞して曰く我れ人の許ふ適き自安飽す汝等獨り此の若きに至る實に余が過ありと是より公事に非ざれば夜行せず

(五)木像に事ふること生けるが如し

〔孝道〕

漢の世に河内の人ありて丁蘭といへるものあり一が少くして父母を失ひ愛慕の念止め難くその奉養するあと能はざりしことを打ち嘆き木を刻みて肖像を造り朝夕これに向ひて禮拜し恰も生々る親に事ふると同じくたりき蘭が

隣家に張淑といへるものありしがある日張淑の妻蘭の妻に物を借らんと頼みければ蘭が妻先づ木像に問ふて兎も角もせんとてやがて辻占を以て木像に伺ひしに不吉なりとかば斷りて貸さざりしを張淑聞きて大よ怒り醉ふ乘じて木像を罵り杖を以てその首を敲げり蘭他より歸り來りて事の始末を妻に聞き悲み憤りてこれを官に訴へたるに官その孝行を嘉みして門閭を旌表したりしといふ

(六)畫像によりて亡父を知る〔孝道〕

隨の世に汝郡の人にて徐孝肅といへるものあり早く孤子となりてその父を知らざりしが年長じて父の容貌を母に問ひ畫工に請ひて父の肖像を描かしめ日日物を供へてこれを祭れり又その母よ事ふることと溫順よして數十年の間一度たりとも忿怒の顏色なく母歿せし時は悲慟して身體瘠せ衰へ見る人悲み痛まざるものなかりしといふ

格言

死せるに事ふること生けるに事ふるが如くせよ

參照

後漢の蔡順至孝なり太守韓崇召して東閣の祭酒と爲す順が母平生雷を嫌ふ雷震ある毎に順輙家を圍り順此に在りと云ふて泣けり

〔忍耐〕

(七)朱冲犢牛を爭はず

晉の時朱冲といふ人あり耕藝を以て業となせしがある時其の隣家にて犢牛を一疋失ひこれを索むるとて朱冲が家の犢牛を誤り認めて我が犢なりとなしこれをひきて歸りしかど朱冲更に爭はず其の後鄰家我が犢を林の邊にて見出せしかば大に慚ぢて先の犢を朱冲に返しけりまた近きあたりの家に畜ひれたる牛放たれて朱冲が田の禾稼を侵せしかども朱冲更にこれを怒らず屢蒭草を持ち往きて此の牛に飼ひしかば牛

〔問〕人ト事ヲ爭フト爭ハザルトハ孰レカ優レルヤ

の主人に愧ぢて其の後は牛を放たざりしとぞ

(八)ソクラテースの堪忍〔忍耐〕

紀元前五百年代の頃希臘の國なソクラテースといへる學者あり性質短氣にして怒り易けれは自ら堪忍してその怒を止めけり常に朋友に頼みて我れ若し怒を發せんとする勢あらば忠告し給ひてよといひて若しその忠告にあふ時は口を閉ぢて無言なりぬある時人ありて手を擧げて先生の片鬢を打ちたるに先生笑ひて兜と

〔問我人ヲ禮スルニ彼我ニ答禮セザレバ怒ランカ如何〕

彼らざりしは我が不幸なりといへり又或る途中に於て貴人に行き逢ひとれに禮を行ひたれども貴人は顧みざりしかば友人との有樣を見て彼の男の無禮なる實に驚くべきなり我は傍らより視ても怒らざるを得ぢといふ先生靜にとれに答へて決して然らぢ人もし君よりも不行儀なる人に出逢ふとあらばとれを笑ふも怒るの理はなかるべし彼の無禮なるもとれと同じことにて怒るべき理あらずといへり先生

の妻は性質頑傲の婦人にて常に先生に對して失敬を盡し無禮を極めたり或る日婦人大に怒ると雖ありて往來にて先生に向ひ亂暴を働きしが先生少しもこれにとりあてざりけり又ある時婦人怒り狂ひければ先生戸外にいでてこれを避けしに婦人益す怒りて二階に上り桶を倒にして汚水を先生の頭に灌ぎかけたれども先生は怒れる色もなく斯るはげしき雷鳴なれば夕立雨も降る筈なりとて打ち笑ひしとぞ

〔問〕人已ヲ怒ル者アレハ已モ亦怒テ之ト抗センカ或ハ徐ニ道理ヲ諭シテ彼ノ怒ヲ折カンカ

格言

徳川家康曰く堪忍は無事長久の基なり

語に曰く柔能く剛を制し弱能く強に勝つ

參照

宋の富弼常に云ふ忍の一字は衆妙の門なり若し清儉の外に又一忍字を加へは何事か辨ぜざらんやと一日人あり弼を罵す弼

知らざるものの如し傍者之を告ぐ弼曰く他を罵するのみ傍者曰く否卿の名を呼べり弼曰く天下豈に同名なからんやと罵する者聞きて大に慚づ

(九)門衛金を得て窮人に施す

〔廉潔〕

伊太利國のミランといふ都に一人の貧窮なる男あり世を渡るたつきなきまま門番となりけるが或るとき不圖金子二百圓入りたる財布を拾

〔問〕遺物ヲ拾フテ其ノ主ニ返ス時主謝儀トシテ物ヲ贈ラントスル時ハ汝等之ヲ受クベキカ又初ヨリ此ノ謝物ヲ欲スルノ心アルカ如何

ひしかどもこれを我が物にせんかどとは露ばかりも思はざ落し主は定めて心配するならんとて金を拾ひたる由を市中に觸れて金の主を求めたるに此の金を落したるて或る貴人にて右の次第を聞き直に門番の處に行きて財布を失ひしことを語りければ門番はいよいよこの人は金の主に相違なきや否やを問ひ極め確かなる證據を得で乃彼の財布を返しければ貴人は大に悅び其の恩を謝するため寸志とし

て二十圓を與へんとしたれど門番は受けとらず我は我が役目の當前を勤めしのみにてこれが爲めに褒美を貰ふべき筋合なしとてこれを辭退しければ貴人はますます感じ入り然らば責めて十圓にても受けられよ五圓なりとも納められよと言葉をつくしてこれを與へんとすれども只管門番の役前を勤めしのみにてこれがため一錢を受くべき理なしとて動くべき氣色あらざれば貴人もこれに當惑して遂に其

の財布を地に擲ち其の許にて少しの金をも受納せらるべきあれば此の財布は余が物にあらず余亦此の金を用ふる所なしといひければ門番已むことを得ず貴人の意に任せて五圓丈け請取りしが直にこれを土地の貧窮人に施し與へたりとぞ

(一〇)廉士債を讓る

〔廉潔〕

薩州鹿兒島野上橋通の藥舗山元某は性質至りて正直の人なりある時家の古帳簿類を取り調

べーふ不圖亡父の代の石燈籠通の岡部某より金百兩を借用したる趣の記しあるを見出して此の帳面の消へざあるは全く返濟せられぬるらん今迄知らざに打過ぎーは我が等閑なりと て早速岡部方に至り古帳面を調べー處亡父の代に貴家より金百兩を借用ーて其の儘返却せざることを見出したれは延引ながら態態推參せり去りながら數十年經しことなれは其の利息を出さんは莫大の金員ぁるを御同樣に先代

のことと且又是れまで相互に知らざりし次第なれば何卒元金百圓にて御勘辨下されたし就ては只今まづ此の金を差上げ置き不足は近日相違なく持參致すべしと懷中より金五十圓を取り出し岡部の前に差置きけるに岡部は突然の事ゆゑ暫時は免角の返答もなかりしがややありてそは先代の事にて御同樣ふ知らぬ事なれば今更御返金なきには及ばぬと答へて差戻を山元いなはも是非に受け納められたしと固

く執りて承引かねば岡部も困ー果て然らば一應帳面を調べんとて直に古帳簿を取り出して見しが一向に貸借の事ハ記載なーされは愈請取るべきものにあらずとて又も差戻したりされは山元ハとが心ふ安からざれはせめて五十圓ばかりとも受取られよとて頻りに乞へど岡部ハまた貴家の帳面に記しありとも當家の方に其の事の見つぬ以上は決して御心配に及ばぢと固く辭ーて承引かねば山元は詮方なげに其

の儘持ち歸りしとぞ

格言

不義にして富み且貴きは浮べる雲の如し

參照

後漢の時苗少くーて清白善を好み惡を惡む建安中壽春の令と爲る其の官に赴くや薄輦車に乘り黃牸牛布被囊あるのみ歲餘にーて牛一犢を生む去るふ及んで其の犢

を留め主簿に謂ひて曰く令來る時本此の犢なし是淮南の生む所なりと

(一一)ジヨンゲーンの誠心賊を欺かず

〔德行〕

波蘭國のジョンゲーンと云ふは人となり慈善に心篤く又よく人を教誡せー人なり或時夜中に用事ありてとある山林の中を馳せしよはしなく五七人の山賊の出て來るに行き遇ひけり此の時常のものならんふい必驚き恐れて逃げ

避けんことを思ふべけれどジョンゲーンは然らぬ倩思ふよう彼等のかく惡業を働らくは固より好みてこれを爲すにはあらざるべー必や其の衣食の其の體に足らぬして飢寒困窮の其の身に迫るが故なるべー若ー衣食にして既に充分ならんにい如何にーてか斯く殘忍無慘なる營生をなすべき思へば可憐の者共なりとて頻りに慈悲心を惹き起し遂に携へたりける金銀て更なり持物乘馬などまで殘るものなく取

〔問〕誠心ヲ以テ人ニ接セバ盗賊ト雖感ズルニ足ルカ如何

り出して賊に與へたるに賊魁と覺しきもの汝が持物は早や此にて盡きたるか若し猶所有あらば一物も殘すまじと云ふゾションゲーンて否とよ早や一物もあることなしとて往き過ぎ三四丁も來りし時忽襟の中に藏めたる金あることを思ひ出し再び賊の在る所に立ち戻りいひけるて我實に汝等を欺きたるにはあらぎ最前與へたる外に尚少しの金を持ちしを忘れたりとて取り出して與へければ賊共は大に驚

〔問〕モト惡心ナクシテ貧困ニ逼リ惡業ヲナスモノハ之ヲ憐マン乎如何

きて其の常人にあらざることを知り遂に最前奪ひし品物を返し其の罪を謝したりとぞ

(一二)女俳優波答の慈善（ポーター）（德行）

英國著名の女優ふ波答と云ふものありある時馬車に乘りて野邊歩きしたるに一人の盗賊出でてこれを脅しければ波答騒きたる氣色もなく懷より一挺の短銃を取り出して賊を狙ひければ賊は大に慌て大地に平臥し僕固より盗賊にあらぎただ家貧くして年老いたる親を養ふ

べきたつきなきにとり心迷ひて斯る惡業を爲さんと今日はじめて思ひ立ちたり此の言努努偽りにあらず冀はくは僕が罪を赦し玉へと淚を流して謝しければ波答其の言の詐りならざるを察して其の情を哀れみ懷より少しの金を出してこれを與へ且忙もしく車を馳せて其の家に到りて見るに如何よも其の言ふ所に違はざりければ益すこれを憐みて我が知れる人人に情を語りて遂に六十封の金を醵して此の賊

に贈り與へたりとぞ

格言

西諺に曰く已に敵するものはこれを愛せよ

參照

後漢の陳寔人を待つこと至厚なり凶歲のとき盜あり夜其の室に入り梁上に止る寔陰に之を見る子孫を呼びて之に訓へて曰く夫れ人は自ら勉めざはある可らず不善

の人未必ずしも本より惡なるにあらず習ひて以て性を爲し竟に此の如きに至る梁上の君子是なり と盜驚きて地に投じ首拔叩て罪を謝す寛の曰く君が狀貌を視るに惡人に似ざ貧困の故ならんと乃絹壹疋を遣る

(一三)周瑜の大量

〔謙遜〕

支那三國の時吳の大將周瑜て少きより大名ありし人なりしに程普といふ人あり己の年の周瑜より長じたるを以て數周瑜を輕しめ侮り

〔問〕人己ヲ輕侮スル時ハ之ト短長ヲ較ベンカ如何

しかど周瑜は節を折りて之に下り終に與に其の短長を較べざりき然るに普後に至りて漸自ら敬服して周瑜と交るに醇醪を飲むに同じ覺へず知らず自ら醉ふと言ふに至れりされば時の人皆周瑜の謙讓よして能く人を服する德あることを稱賛しけるとぞ

(一四)己の長を以て人を凌がず

〔謙遜〕

春澄善繩て幼より智慧人に勝れたればその父

〔問〕人ト短長ヲ較ブルハ品行上ニ於テ如何

豐雄いと奇しき者なりとて家産を傾け文字を習はせければ善繩日夜勉勵して手よ書卷を捨てゝ学されば年漸長ずるに隨ひて博文强識の譽れ高く淳和仁明文德清和の四帝に歷事して高官に登りけりされども謹愼質朴よりして苟にも已の長所を以て人を凌ぐの心なく常に謙遜退讓して已知らざる者の如しその文章博士たりしとき諸の博士等互よ黨派を立てて相輕蔑し又その弟子も已を是とし人を非として爭論の

絶ゆる間なかりしかば人の誹り世の嘲り止むことなかりければ善繩その中に居りて獨り善名を失むさりけり

格言

斯邁爾斯曰く條理に達する人は必ず讓謙なり

參照

藤原三守天性恭溫事に臨みて明決好みて經史を讀む常に書生を延き禮待歡を盡す

朝參して途に學生に遇へば必馬より下り之に接す敢富貴を以て朋友に加へず

(一五)聾者學を講じて明者を笑ふ

〔勉強〕

文政の頃江戸に塙保巳一といふ名高き盲人あり夏の夜門人を集めて悉障子襖を開き清風を取りつつ書を講じけるが折節風吹き入りて燭消ぬ門人等あわてまどひてしばし講を止めてたまへ燭消して書の見えず候と云へば保巳

一笑ひてさても明者は不便なるものかな燈の力を借らずしては夜書を見ることも能はぬやと云ひけるとか務めて止まざる時は盲目の者といへども猶かくの如し然るに兩眼烱々たる人にして目は一箇の文字をも見ることも能はずとは抑何の心ぞや

(一六)二眼を請ふて五百石を得

〔勉強〕

杉山和一は大和の人なり幼ようして兩眼を失ひ

ければ江戸に來りて鍼術を山瀨琢一に學ひしに性得鈍くしてその技進まざりしかど日夜刻苦勉勵して遂にその蘊奥を極めたり將軍德川綱吉公和一を召してその病を療治せしめ給ひしに効ありければ厚く和一を賞せんとて汝何をか欲すると問ひ給ふに和一對へて臣願くは一つの目を得たく存じ候といふ綱吉公愍れみをぼされ吾能く汝に一目を與んとて宅地を本所一つ目の里に賜ひ祿五百石を與へられける

〔問不具ノ人ト雖勉强スレハ常人ト異ナルコトナキヲ得ルヤ如何〕

後關東總錄檢校となり大にその術を國中に擴めけり

格言

勃古斯敦曰く他人より一倍の勞苦をなさば他人のなせる事をなし得べし

參照

大和國式下郡永井佐平の女幼にして明を失ひ長ずるに及びて裁縫を學ぶに數月に

して其の綱領を了得す歳月を經て愈其の業に熟練し其技巧妙なるとゝ具眼者に異ならざりしゝ云ふ

(一七)人を打つ者は我身を打つ

〔沈勇〕

〔問〕汝等突然他人ヨリ麁暴ノ待遇ヲ蒙ラバ已亦之ニ應ズルニ麁暴ヲ以テセンカ將タ其事由ヲ推問シテ然ル後之ヲ處セン歟如何

大納言行成卿いまだ殿上人なりける時中將實方朝臣殿上に參り會ひたるに實方の中將何事も言はず行成卿の冠を打ち落し庭に擲ちたり行成卿周章たる色もなく徐に主殿司をよび冠を取らせ之を冠りて守刀の笄拔きいだし鬢の亂をつくろひ居直りていかなる故ありて忽ふかかる亂冠に預るべき事更に覺へぞまづ其の故を承りて後に如何とも致さんとて詞穏かに言はれければ實方の中將は何の答もせぞして其の座を立ちたり折節一條天皇小蔀より御覽ありて行成て優なる者なりと仰られて其の頃藏人頭の闕ありしゝを人多く望みげるに許し玉てぞして行成卿を遙か末席より引き擧げて任

ぜられ實方ハ歌枕見て參れとて中將を陸奥守にして其の國に遣されたるがやがて彼所にて歿したり一て寛洪によりて官を得一て鹿暴によりて官を貶されたり

(二八)怯き犬は敵に吠ゆ〔沈勇〕

〔問怯夫ト勇者トハ其擧動如何ナラン〕

ある一人の子供その先生に隨ひ或村を通行せし折二三疋の痩犬恐しき氣色にて之に吠ひ掛り或て咬み付かんとせしかば子供は杖を振り廻し或は石を擲ちてこれを追へば直に逃去り

一歩行きて振り返れば又後より附き來りこれを如何ともそべからず兎角する間に或る農家の畑の處迄來りければ彼の痩犬も遁げ去りたり然るにこの畑の傍に肥へる一疋の飼犬日向に溫まりて熟く睡り居たり子供は復大に恐れ先生の側に寄り付き其の處を通り過ぎしに犬は優優として此方を見向もせざりけり兩人は又進みて鳥獸を飼ふ牧場に至りしかば一群の鵝鳥人を見て鳴き騒ぎ何れも長き頭を揚げ

て兩人の方へ向ひ來る其の有樣おかしくも又愚らに見いけれは子供も打ち笑ひ杖をもて其の頸を打ちそのまま通り過ぎて少しく先きの方へ至れはとともにい數疋の牝牛一疋の牡牛に伴ふて群り居たり子供は此の體を見て又少しく恐るる樣子なりしかども牛は平氣なて草を喰ひ其の頭をも揚げざりけりされは子供い先生に向ひ彼の飼犬も牡牛もねとなしくして鵝鳥痩犬の如くふらざりしは實に仕合なりとり

ふがら同ト獸畜にて斯く相違あるは何故なるやと尋ぬれは先生懇ふ子供ふ說き諭していへるよう都て弱く賤しき獸畜い自分の身に賴むべき力もなく勇氣もあき故始終他の者より害を加へられんことを恐れ我より先きよ他を犯して身の災難を遁れんと思ひ動もすれは何物に向ても騷がしく敵對すれとも其の實は憶病ふして相手の者を恐るるなりとれに引き替へ自分の身を護るだけの力を備ふる畜類て已が

身を頼みにして他の者を疑はざるもあいつも平氣ゐして自分の位を失はざるなりとい唯畜類のみならず人も亦然り弱く賤しき人物は常に他人を猜ひ懼れて妄りふ罵り憶病の餘りよ人に失禮をも加へて只管身構をせんとするものなり唯大量の君子は然らずその心常に靜にして人を犯さず人を害するおとなく人よ害せらるることもなく或は僅に害を被ることあるもこれを捨てて問はず其の故て假令ひ害を被

りたりとも遽に彼是とこれを取糺さるも元自分の身に頼むべき力量あるに由り何時にても然るべしと思ふときに事の條理を取り糺さんとする覺悟あればなり

格言

語に曰く内に省て疾しからずは何をか憂ひ何をか懼れん

參照

唐の婁師德その弟に謂ひて曰く兄弟榮寵

過盛なるハ人の疾む所なり何を以て免れん弟の曰く自今人某の面に唾さゞ雖之を拭はんのみ師德愀然として曰く此吾が憂を爲す所以なり人汝が面に唾するは汝を怒るなり而して之を拭へば其の意に逆ひて其の怒を重ぬ唾ハ拭ハざれども自ら乾く正に笑ひて之を受くべき耳を

（一九）西行銀猫を童子に與ふ

〔廉潔〕

僧西行四方に歴遊して鎌倉を過ぎし時途上にて將軍頼朝卿に逢ひけるが卿侍臣をして其の名を問ハしめ因りて之を府中に召し和歌及射術の事を問ハれける西行辭して曰へるやう弓矢の業は粗箕裘を繼げども遁世の時先祖秀郷以來傳ふる所の書籍ハ悉焚き捨てたり又和歌の若きは時に感ずる物に觸れ僅に之を詠ずれども微旨蘊奥は素より解せざる所にして以て對ふべきなしと頼朝卿固く請ひて已まざれば西

行之が爲と終霄弓馬を談じ翌日直に辭して去る賴朝卿固く留めらるれども聽かず因りて遺るに銀猫を以てす西行之を受けて出づ適門外に兒童の戯れ遊べるを見て之に銀猫を投げ與へて去りけるとぞ西行俗の名は佐藤憲清と呼び勇敢ふして射技を善くし兵法に通ず鳥羽上皇に仕へて左衛門の尉に至りしが年二十三にして遁世したり

(二〇)釵を得て吏に返す〔廉潔〕

宋の世に彭思永字は季長と云ふ人あり齡八歳の時朝未明に出でて學校へ赴かんとするに圖らずも一つの金釵を拾ひ誰が落したるやらん必來りて尋ぬるものあるべしと思ひ其の處に立ちて待つ程に一人の官吏と覺しき男來りて其のあたりを徘徊すること稍久しかりしかば是なるべしとて傍よと寄り足下は何をか求め給ふやと問ふに釵を落したれば尋ぬるなりといふさらばこそと思ひ其の釵の模樣を問ふに

〔問〕遺物ヲ其ノ主人ニ返シタル時主人若シ謝物ヲ贈ラバ之ヲ受クベキヤ否

其のいふところ先に拾ひたると符合したりければ釵を出して返し與ふるに吏喜びて謝するに數百錢を以てしたりしかば思永笑ひて受けざ我れ利を欲する程ならば素とり釵を返さざるべしさらば數百錢には遙かにまさりたる利ありといふに吏大に驚き其の清廉を稱歎して去りしとぞ

格言

語に曰く忮らず求めずば何を以てかよからざらん

參照

隋の趙軌の東鄰に桑あり甚其の家に落つ軌人を遣り悉拾ひて其の主に還す後夜行す其の左右の馬逸して田中に入り人の禾を踐蹈す軌馬を駐めて明を待ち禾主を問ひ直を酬ひて去る

(二一)朋友の訓戒によりて性行を一變す

〔改過〕

有名なる神學者巴禮(バレー)は偶然の事より由りてその行を改めたり巴禮天性の才智優れしものなりしが堪比日(カンビヒ)のクライスト、コルレーヂ學校に在りし時懶惰なりしに加へて涙りに錢財を費したりされば三年を經たりけれども進歩甚少し去れども巴禮益す放逸の行ありしかばある日一人の友巴禮が臥床の傍に立ちて言ひけるは巴禮よ我は足下の事を思ふて睡ることを能はず足下はいかなれば斯かる愚なる擧動を爲し給

〔問〕朋友ノ懶惰放逸ナル者ニ遇ハバ之ト絶タンカ之ヲ諫メンヤ

ふぞや我も放逸を爲しても財を費やすほどの資力あり又我は懶惰にして居らんとせば居らるべし足下は貧しくして之を爲すことを能はず且我も勉め試みて何事をも能し得ず足下は爲すことを有れば能せざることなし我は之を思ひて終夜床に横はりどを睫を交へざりき今我嚴正に足下を訓誡せんと欲して來れり足下もし懶惰にして愈從前の行を改めざれば請ふ足下との交を絶たんといひしかば巴禮は深く其の

言に感ドそ〕の性行俄に一變して勤勉學習の功を積みたれば後來著述家及神學者として遍く一世に名を顯はしけり

〔問人ノ友愛ナル談話ヲ聞テハ如何ナル感覺ヲ起スヤ〕

(二一二)孝悌なる人の談話を聞きて兄弟の恩愛を全くす〔改過〕

宋朝の時ふ施相之施詡之といふ兄弟家を分ちて住みけるが田地の境界論ありして遂に骨肉の親しみを失ひ親類朋友より度度講和を勸めたれども其の紛爭を解くこと能はざりしが同

村に嚴鳳といふ人ありてかねて孝友の聞こえ高くして其の兄に事ふることと父に事ふるが如く親敬の誠至らざる所なかりきある時施詡之用事ありて門外の川より便船して他鄉へ赴かんとしてはしをなく嚴鳳と船中にて落ち合ひたり四方八方の談しの末互の家產の事に及びたるに施詡之彼の境界論の事を云ひ出して兎かく兄の非をあげつらふに嚴鳳つくづくと聞き眉を攢めていひけるは扨も御兄君て膽略才幹

ある方さまなりそもにつけても我が兄のいひがひなさ常に我等にのみ家産の事をとりまかなハせてわれ差圖せんとも思せど我が家には在來の田地何町歩ありや我が家の財物も幾何なるやもしらぬげなるこそ片腹痛けれ萬の一分にも我が兄にして御兄君の如き才幹あらせたらんふぜたとひ我等の田地を悉奪はれても本意ならんものをといひげれは施訓之其の言に感動して思はずも涙を流し深く既往の非を

悟りてそぞろに悔悟の念に堪へず俄に他行を止め彼の嚴鳳を請ひ伴なひて兄の許へ赴き泣泣一伍一什拔語りて深くみづから悔いたる旨を陳べ此迄の罪を謝しけれに兄もまた大に感じ入りて遂に互に曩には相爭ひける田地を讓りあひて取らず兄弟いと睦まじくなりてあれ名士となりけれとぞ

格言

洗心輯要に曰く此の心一だ

び悔れは愆を消すこと氷雪の如し

參照

甄琛と云ふ者あり進士に擧げられて都に入る歳を積んで奕棋を好み通夜奴をおいて燭を執らしむ奴睡る甄怒りて杖責を加ふ奴の曰く郎君今父母を辭して仕官を若書を讀むが爲にして燭を執らは敢罪を逃れざ乃棋を圍みて日夜止まざ豈是京に向ふ

意ならんや而して肆に杖罰を加ふ亦理に非らざと甄悵然として慚感し遂に棋を廢し學を勉めて倦まざ

(二三)他人の子を育みて後幸を得

(仁愛)

〔問〕己レ貧困ノトキハ人ヲ恤フルノ遑アラザル歟如何

佛蘭西の或る處にマルセルといと貧しき男ありけるが二人の幼兒をのこして夫婦と心身まかりけり諺にも盲人の杖を失ひ幼兒の母に離れたるかと便りなきいあらじといへるにま

して一時に父母に離れたるなれはただ泣き叫ぶのみにて如何にも詮すべあるべくもあらぜ其ままにてありなんにも飢あて死すべうりけるに其の近邊に住居する職人にロベールといふ人ありけり三人の子供を持ちけるが其の妻に語りてマルセルの孤兒の餓あ死なんは不便ふり救ひとりて養ハんハ如何にといふに妻は我が家貧きがうへよ三人の子供さへあるはとれのみすら既に暮しの難義なるに如何にして

かまた二人の子供を養ふべきといへどもロベールは我等二人の一日に食ふべき食料四分の一宛を分ちて彼等を養ふべしとて遂にマルセルの孤兒二人を引取りけるさらぬだに足らぬ勝ちなる身代ふるに俄よ二人口をまーたれはふかなかに引足るべくもあらぬを夫婦力を合せて働らき兎角して育てあぐる程に漸く年月を積みて自他五人の子供みな生長ーていづれも職人となり働き得たる賃金は悉くロベール

まゝ贈りければ今まで貧しかりけるロベール俄かに富人となりけるとなん

(二一四)米を賣りて利を貪らず

〔仁愛〕

〔問〕仁愛ヲ以テ人ニ物ヲ施與スルハ損益如何

宋國廣陵といふ處に李班といふ米商人ありけり其の心極めて正直なる旨にして一かゝる慈心深き男なり其の頃同地の米商人に一種の惡弊ありて往往賣升と買升とを分ち賣升には小なるを用ひ買升には大なるを用ふる習はせなりしが李班一人は然らで賣買ともかならず一つの升を用ひてたかもわが手にて米をとりからず升を米買ふ人にさづけて其のまにまゝはかりとらせけり且また年年我家のくらし方に用ふる入費の多寡をあらかじめ精算して父母の養ひに供ふるに足る以上は米の時價の如何ふ拘はらずして廉きを旨とし賣りたりければ仲間の米商人等ていづれもみな李班を迂濶なりとて口口に笑ひ嘲りけるが李班の米廉くして其の

評判高げれば米を買ふ人ハみな李班が家に來り〻程に其の商賣大に繁昌して曩に嘲けり笑ひし仲間のものよりは遙かに多くの利益を得て其の家を富ましけるとぞ

格言

西諺に曰く人に親切を盡すは我が身に親切を盡すに同し

參照

魏の時學は北直鉅鹿の人なり仁愛よりて義を重んじ施を好む其の家田產多くして積穀餘りあり歲凶歉にして穀價騰貴すれば倉稟を發して出糶し時價の半を取り以て人の急を周へり常に人に語て曰く凶歲の半價は豐時の全價より少く之を取ると雖損と爲らぜ

尋常小學校教師用修身書第三終

明治二十年二月十日版權免許
仝　年三月　出版
仝　年七月十八日再版御屆

定價金十五錢

編纂兼出版人　熊本縣士族　辻敬之　東京下谷區練塀町十四番地

編纂人　東京府平民　岡村增太郎　東京神田區松永町十九番地

發兌所　教育書專賣所　普及舍　東京下谷區練塀町十四番地

明治十四年以後
製本以此印紙爲証
著作者及藏版者

120,1

大日本教育會書籍館
一三函
二架
九八號
四冊